

Date

県内経済 〈2月〉

概況

県内経済は、全体として回復の動きが足踏みしている

木材の生産は前年を上回ったものの、電子部品は前年を下回り、機械金属は低迷が続いている。建設は、住宅着工が前年を上回ったが、公共工事は前年を下回った。個人消費は回復の兆しがみられる。雇用情勢は弱い動きとなっている。

産業別の動向では、電子部品の生産額は、車載向けで電気自動車（EV）市場の伸び悩みにより低迷しているほか、スマートフォン向けも落ち込み、2か月ぶりに前年を下回った。機械金属の生産額は、ウエイトの高い輸送機械で海外向けの低迷が続いており、12か月連続で前年を下回った。木材の生産量は、普通合板（1月）が2か月連続で前年を上回ったほか、製材品も13か月連続で前年を上回った。公共工事請負額は、4か月連続で前年を下回ったが、年度累計では前年を上回っている。地元大手（12社）の建設受注額は、官公庁工事、民間工事と

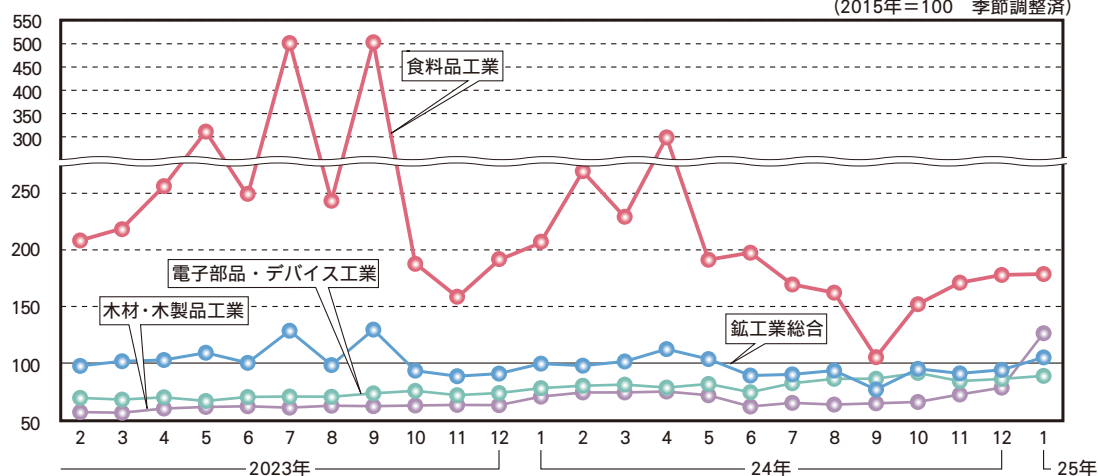
もに振るわず、3か月連続で前年を下回った。住宅着工は、2か月連続で前年を上回った。個人消費は、小売店販売額（1月）が3か月連続で前年を上回ったほか、新車乗用車販売台数も2か月連続で前年を上回り、回復の兆しがみられる。

有効求人倍率は前月比0.01ポイント低下の1.23倍となった。新規求人数は前年比10.5%減と7か月連続で前年を下回った。事業主都合離職者数は前年比104.4%増と3か月連続で前年を上回った。

企業倒産件数は0件であった。件数0件は2022年8月以来、集計史上8度目。

秋田県鉱工業生産指数の推移

(2015年=100 季節調整済)



資料：秋田県企画振興部調査統計課「秋田県鉱工業生産指数月報」



電子部品

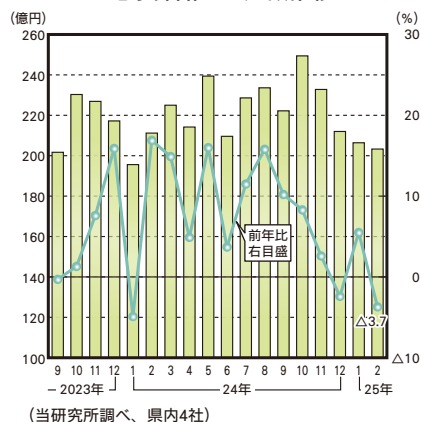
生産額、減少止まらず

2月の生産額は前年比3.7%減となり、2か月ぶりに前年実績を下回った。金額的にも減少傾向が続いている。

車載向けは電気自動車（EV）市場の伸び悩みにより低迷しており、回復傾向にあったスマートフォン向けも中国系メーカーの高価格帯製品を中心に落ち込んできている。その他民生機器向けは依然好調が続いているものの、総体では減少幅が大きくなっている。

その他品目別では、液晶パネルは増勢を強めており、半導体素子も堅調に推移しているものの、主力のセラミックコンデンサやコイルは落ち込みが激しくなっている。

電子部品の生産額推移



機械金属

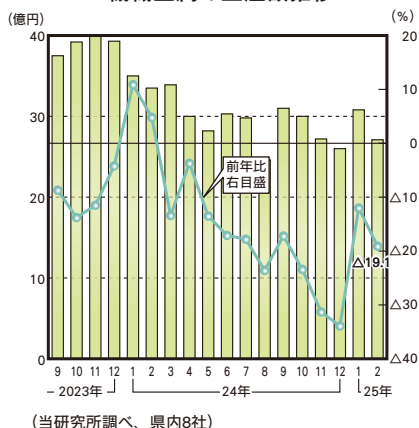
生産額、低迷続く

2月の生産額は前年比19.1%減となり、12か月連続で前年実績を下回った。

ウエイトの高い輸送機械は、国内向けは回復傾向にあるものの、海外向けは中国での価格競争激化に加え、欧州、北米での販売不振などにより低迷しており、総体では減少傾向が続いている。その他民需関連では、産業機械は大幅減に歯止めがかかっておらず、建機部品、金型は一進一退の動きとなっている。

公共工事関連は、好調が続いていた水道部品は減少傾向となっており、橋梁・鉄骨も低迷から脱していない。

機械金属の生産額推移



木材業

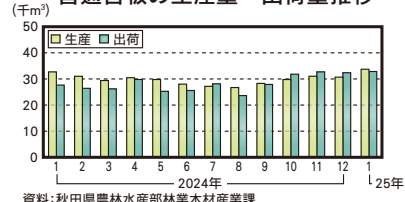
普通合板が2か月連続で前年比増加

新設住宅着工の低迷による需要不足から、全国的には木材・木製品の生産・出荷量の伸び悩みが続いているが、本県では県内大手の増産と県北の大型製材工場稼働により、製材の供給増が続いている。

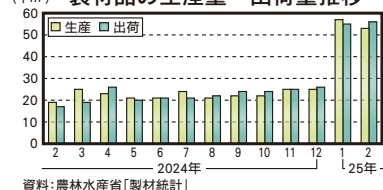
1月の普通合板は、メーカーの値上げ表明による仮需要の発生もあり、生産量は前年比3.2%増、出荷量も同18.8%増といずれも2か月連続で前年を上回った。

2月の製材品は、農林水産省の調査対象サンプルに変更（追加）があった影響等から、生産量が前年比178.9%増、出荷量も同229.4%増と、前年を大幅に上回った。

普通合板の生産量・出荷量推移



製材品の生産量・出荷量推移

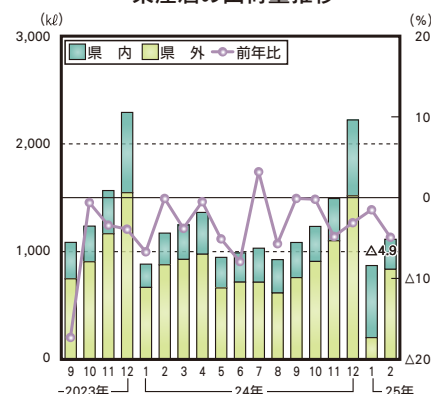


酒 造 業

出荷量、7か月連続で前年比減少

2月の清酒出荷量は、前年比4.9%減となった。物価上昇による節約志向の高まりから、7か月連続で前年を下回った。出荷先別では、県内向けは同5.1%減、県外向けも同4.8%減となり、ともに前年を下回った。県外の主な出荷先別では、北海道は同2.9%減、東北5県も同1.0%減と前年を下回ったほか、東京が同10.2%減と前年比二桁の減少率となった。種類別では、普通酒は同10.2%減と前年を大幅に下回った一方で、特定名称酒は同1.1%増と前年を上回った。特定名称酒の内訳では、本醸造酒は同5.6%減となったが、吟醸酒は同0.1%増、純米酒も同3.9%増と前年を上回った。

県産酒の出荷量推移



資料：秋田県酒造組合

建 設 業

公共工事 国、県等が減少し前年を下回る

2月の公共工事請負金額は、国、県、市町村等が減少し、前年比55.4%減と4か月連続で前年を下回った。4月からの年度累計実績は前年同期比7.8%増となった。

一方、当研究所調査による地元大手12社の2月の新規受注額は、前年比57.6%減の1,174百万円と3か月連続で前年を下回った。

うち官公庁工事は、港湾整備や道路災害復旧の大口工事があったものの同10.5%減、民間工事は、大口工事の受注がなく、同91.2%減となった。4月からの年度累計実績は前年同期比2.9%減とマイナスに転じた。

公共工事前払金保証実績

(単位：件、百万円、%)

区 分	2月	前年比	4～2月	前年同期比
件 数	40	△65.2	2,117	△6.7
請負金額	2,296	△55.4	153,373	7.8

資料：東日本建設業保証㈱秋田支店

地元大手企業12社受注額

(単位：百万円、%)

区 分	2月	前年比	4～2月	前年同期比
官 公 庁	1,032	△10.5	14,776	13.7
民 間	142	△91.2	7,005	△25.6
合 計	1,174	△57.6	21,781	△2.9

(当研究所調べ、県内12社)

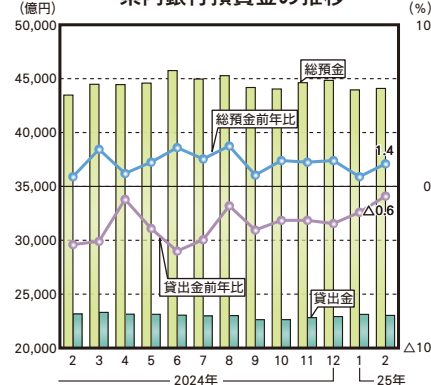
金 融

貸出金、前年割れ続く

2月末の県内銀行の預金は、前月末比138億円増加し、前年比でも1.4%の増加となった。貸出金は、前月末比96億円減少しているが、前年比でも0.6%の減少となった。預金の伸び率は前年を上回って推移した一方で、貸出金の伸び率は前年を下回って推移したものの、減少幅は前月から縮小した。

2月の倒産件数(負債総額1千万円以上)は0件(前年比6件減)、負債総額は0円(同6億2,200万円減)となった。倒産発生ゼロは、2022年8月以来2年6か月ぶりとなり、1971年の集計開始以降では8度目となった。2月としては、2021年度以来4年ぶりに倒産が発生しなかった。

県内銀行預貸金の推移



資料：秋田県銀行協会



住宅着工

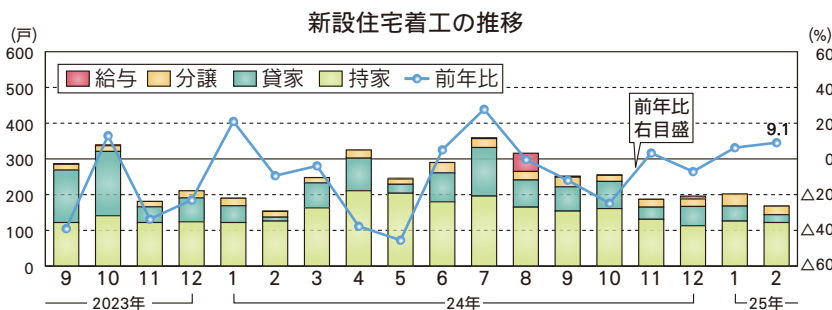
着工戸数、2か月連続で前年比増加

2月の県内新設住宅着工戸数は、168戸（前年比14戸増、9.1％増）であった。主力である持家に加え給与住宅が減少したものの、貸家と分譲住宅が増加し、2か月連続で前年を上回った。

利用関係別では、持家が122戸（前年比4戸減）、貸家が22戸（同11戸増）、分譲住宅が24戸（同8戸増）、給与住宅が0戸（同1戸減）となった。

持家は2か月ぶりに前年を下回った。貸家は、秋田市では減少したものの、由利地域、男鹿・南秋地域、北秋田地域で増加し、7か月ぶりに前年を上回った。分譲住宅は戸建の着工が増加し、6か月連続で前年を上回った。

地域別では、県北と県央は貸家と分譲住宅の着工が増加し、前年を上回った。県南は前年比横這いとなった。



資料：秋田県建築住宅課

住宅着工動向

(単位：戸、％)

区分	2025年2月		25年1～2月	
	2025年2月	前年比	25年1～2月	前年比
県北	32	18.5	61	1.7
県央	102	9.7	214	0.9
県南	34	0.0	95	31.9
合計	168	9.1	370	7.6

資料：秋田県建築住宅課

個人消費

回復の兆しがみられる

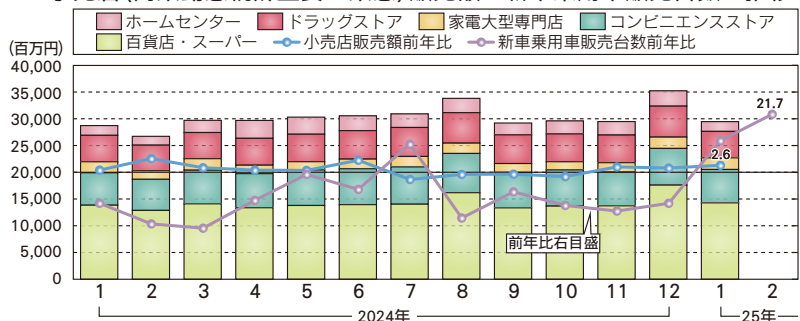
1月の小売店（商業動態統計主要6業態）販売額は、前年比2.6％増となり、3か月連続で前年を上回った。

内訳をみると、家電大型専門店（前年比5.2％増）、コンビニエンスストア（同3.1％増）、百貨店・スーパー（同3.1％増）、ホームセンター（同0.3％増）、ドラッグストア（同0.1％増）とすべての業態において前年を上回った。

2月の新車乗用車販売台数は、認証不正問題で停止していた車種の生産再開による反動増などにより、前年比21.7％増と2か月連続で前年を上回った。

内訳をみると、登録車が同24.6％増と2か月連続で前年を上回ったほか、軽乗用車も同18.0％増と2か月連続で前年を上回った。

小売店（商業動態統計主要6業態）販売額・新車乗用車販売台数の推移



資料：経済産業省、秋田県自動車販売店協会

2月の新車乗用車販売台数（単位：台、％）

区分	販売台数	前年比
新車乗用車総販売台数	2,556	21.7
登録車	1,448	24.6
普通車	822	20.9
小型車	583	36.5
輸入車	43	△21.8
軽乗用車	1,108	18.0

資料：秋田県自動車販売店協会

県内個人消費関連指標（前年比）（単位：％）

区分	2024年11月	12月	2025年1月
①消費者物価指数	2.7	3.5	4.1
②勤労者名目賃金	4.3	0.1	1.0

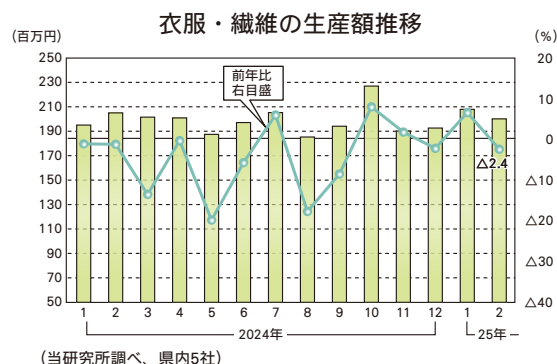
資料：①秋田県（総合指数、秋田市）
②秋田県（事業所規模5人以上）

衣服・繊維

生産額、2か月ぶりに前年比減少

2月の生産額は、前年比2.4%減となった。気温の低下により、百貨店等で春物の動きが弱く、2か月ぶりに前年を下回った。

受注は、春夏物が好調に推移し、12か月ぶりに前年を上回った。一方、最低賃金等の人件費の増加により収益は減少傾向にある。



雇用

弱い動き

2月の有効求人倍率(季調値)は、前月比0.01ポイント低下の1.23倍となった。常用の内訳では、一般は同0.07ポイント低下の1.38倍、パートは同0.05ポイント上昇の0.94倍となった。

新規求人数は前年比10.5%減となり、7か月連続で前年を下回った。産業別にみると、製造業は同18.6%減となった。「電気機械器具」で増加したものの、「食料品」のほか多くの業種で受注の減少や経費の上昇分を価格転嫁できないことにより求人を減らす動きがみられた。非製造業は同9.6%減となった。「運輸、郵便」「医療、福祉」で

増加したものの、「卸売、小売」で物価高騰による来客数減少の影響により減少したほか、「建設」でも資材価格高騰の影響により減少した。

新規求職者数は前年比11.7%減となり、2か月連続で前年を下回った。

事業主都合離職者数は前年比104.4%増となり、3か月連続で前年を上回った。

地域別雇用状況(パートを含む常用)をみると、新規求人数は県北、県央、県南でいずれも減少した。有効求人倍率は県北が最も高く1.34倍、県央が1.26倍、県南が1.01倍となった。

業種別・新規求人内訳および新規求職者数(全数)

(単位:人、%)

区 分	2025年1月	前年比	2月	前年比
新規求人計	7,828	△4.3	7,453	△10.5
製造業	774	△6.7	675	△18.6
食料品	119	△4.0	108	△20.0
繊維	80	△35.5	81	△43.4
木材・木製品	31	△44.6	32	△44.8
金属製品	69	1.5	59	△26.3
電子部品・デバイス・電子回路	94	1.1	94	△6.9
電気機械器具	58	△20.5	46	283.3
非製造業	7,054	△4.1	6,778	△9.6
建設	896	4.6	964	△10.4
運輸、郵便	379	7.1	260	16.1
卸売、小売	972	△14.1	863	△22.5
宿泊、飲食サービス	739	0.7	456	△9.3
生活関連サービス、娯楽	342	20.0	208	△32.7
教育、学習支援	110	△24.7	128	△39.6
医療、福祉	1,614	△12.4	1,597	5.3
サービス	1,021	△7.5	894	△4.6
新規求職者数	4,167	△6.0	4,150	△11.7
有効求職者数	14,922	△1.7	16,343	△3.8

資料：秋田労働局職業安定課
(注) 臨時・季節を含む

有効求人倍率および事業主都合離職者数

(単位:倍、人、%)

区 分	2024年11月	12月	2025年1月	2月
有効求人倍率	1.46	1.48	1.45	1.38
常用				
一般	0.92	0.87	0.89	0.94
パートタイム	1.25	1.24	1.24	1.23
全数(季調値)	1.25	1.24	1.24	1.23
事業主都合離職者数	129	334	245	280
前年比	△11.6	127.2	1.7	104.4

2月の地域別雇用状況(パートを含む常用)

(単位:人、%、倍、ポイント)

区 分	新規求人数		有効求人倍率	
	前年比		前月比	
県北	1,563	△21.6	1.34	0.01
県央	3,519	△5.4	1.26	△0.03
県南	1,873	△4.0	1.01	△0.02
合計	6,955	△9.3	1.20	△0.03

(注) 臨時・季節を除く